

令和2年度 奈良県立五條高等学校（賀名生分校）学校評価総括表

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、「社会で自立して生き抜く力の育成」を目指し、「未来につながる確かな学力」、「豊かな心で人と連なるコミュニケーション能力」、「困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識の向上」に努める。そのため生徒それぞれに、「夢」、「希望」、そして「挑戦」をキーワードとして生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。</p>				<p>総合評価</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、創造的で独創的な多くの取組みを積極的に実践することによって ①『学校の魅力づくり』 ②『入学生徒の確保』 を学校経営の主眼として学校の活性化に取り組んできた。今、奈良県南部・地元五條市等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。今までの取組みを通して明らかになった課題を整理する中で、農業の担い手の育成やスキルアップを図るなどの改善点が見えてきた。 平成30年度から全国募集を始め、新たな学校としてよりよく生まれ変わるため、県内外から入学する生徒・保護者や地域の期待に応えるべく、計画の充実をさらに図る必要がある。</p>				<p>B</p>
<p>本年度の重点目標</p> <p>具体的目標 ○主な具体的方策</p>	<p>評価の指標（担当）等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>1 魅力ある進路実現 ～進路指導をはじめ魅力ある進路実現への対応～</p>					
<p>(1) わかる授業の展開 (2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ①静かで落ち着いた学習環境づくり ○学習活動の工夫を図る。 ②魅力ある授業の創造 ○基礎・基本の定着 (3)進路保障にかかわる取組の充実 ○計画的・系統的な進路指導</p>	<p>⇒生徒アンケート「授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」（教務部） 本年度<目標:80%></p> <p>⇒保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」（教務部） 本年度<目標:90%></p> <p>⇒生徒アンケート(第4学年)「自分の希望する進路実現ができた」（進路指導部） 本年度<目標:80%以上></p> <p>⇒生徒アンケート(全学年)「生徒一人ひとりの進路に応じて、丁寧な指導が行われている」（進路指導部） 本年度<目標:80%></p>	<p>72% 98% 75% 98%</p>	<p>B A B A</p> <p>・基礎的事項と達成目標を年度当初に確認し、各定期考査時にも再確認を行った。 ・到達度が不十分な生徒に対し、達成目標と取組の方策を確認し、学力の充実、技術の深化を図るため、放課後や休業中を利用して積極的に補習を実施できた。 ・残り1名がまだ未決定だが、現在進行中で3月末には決定する予定である。 ・支援を必要とする生徒の進路実現体制が不十分である。</p>	<p>・生徒一人ひとりの習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・各教科において、本年度の成果と課題を踏まえて、達成目標と学習指導について年度初めに十分検討する。 ・個々の生徒に応じた継続的な進路指導を行う。特に来年度は全国募集の生徒が進路決定となるため、保護者やハローワーク、関連機関と連携を図り、進路実現につなげる。</p>	<p>・コロナウイルス感染防止対策が重要な状況が続くが、オンラインを活用した学習などの充実を望む。 ・自分の将来に展望を持ち、目標をもって学習に取り組むよう、さらにきめ細やかな指導をお願いしたい。</p>
<p>2 充実した学校生活 ～学校行事の充実と部活動の活性化～</p>					
<p>(1) 学校行事の精選と内容の充実 (2) 部活動の活性化 ①心身の健康保持、増進 ②体験活動の充実と忍耐力の育成 ③コミュニケーション能力の向上</p>	<p>⇒部活動加入率（生徒指導部） 本年度<目標:50%></p> <p>⇒各体育行事の参加率（保健体育部） 本年度<目標:95%></p> <p>⇒生活体験発表会への参加（教務部） 本年度<目標:全員></p>	<p>30% 99% 全員</p>	<p>B A A</p> <p>・部活動の参加者は増加し、活動も活発化した。 ・各体育行事には生徒は積極的に参加している。 ・全クラスから発表者を選出し、落ち着いて実施できた。</p>	<p>・参加者増加に向け、活動内容の充実を図る。 ・各体育行事の内容を興味・関心が湧くよう常に見直しを行う。 ・自分の意見をスムーズに人に伝えるよい機会となっている。更なる充実をめざしたい。</p>	<p>・いろいろと資格が取れる学校にしてほしい。</p>
<p>3 安心して通える（通わせる）ことができる学校づくり ～きめ細やかな生徒への対応と生徒指導の充実～</p>					
<p>(1) 日頃から生徒及び保護者との関わりを大切にする (2) 共通理解、同一歩調、全校体制で指導にあたる ①積極的生徒指導の推進 ②人権教育の推進 ③規範意識の醸成 ④地域貢献活動による生徒の主体的活動の推進 ⑤現場実習等により社会性の醸成と正しい勤労観の育成</p>	<p>⇒生徒アンケート「生徒会・ボランティアの活動は活発で、関心が持てる内容である」（生徒指導部） 本年度<目標:70%></p> <p>⇒事件数・違反件数（生徒指導部） 本年度<目標:0件></p>	<p>81% 2件</p>	<p>A C</p> <p>・校外でのボランティア活動は実施できなかったが、校内行事での生徒会活動は自主的な活動が展開できた。 ・交通ルールに関する意識が低く、軽率な行動が目立った。</p>	<p>・校外での活動についても、実施可能な内容の企画を考える。 ・LHR等を活用して軽率な行動が重大な事故を導く事例を揚げ、思慮深い行動を促す。</p>	<p>・コロナウイルス感染拡大のため様々な交流や行事が縮小・中止となる中、学校規模が小さい利点を活かし、工夫を凝らして学校行事を実施していると感じた。</p>
<p>4 外部との連携・情報発信の強化 ～開かれた学校・地域とともにある学校～</p>					
<p>①五條市・五條市教育委員会・地元自治会・老人会等との連携</p>	<p>⇒地元行事への積極的参加 本年度<目標:5回></p>	<p>0回</p>	<p>C</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年参加の地域や農業クラブ行事は軒並み中止となった。</p>	<p>・全国募集の生徒が4学年揃い、育友会活動の見直しを検討する必要がある。</p>	<p>・地域との連携を深め、地元中学生の憧れとなるよう五條市、地域の</p>

地元幼稚園との連携強化 ②学校・家庭・地域・関係機関との連携強化 ③入学希望者数の確保 ④ホームページの充実	⇒農業クラブ ⇒学校行事への育友会会員の参加者数（総務部） ⇒学校ブログ年間更新回数（総務部） ⇒ホームページでの情報発信（総務部）	本年度<目標:5回> 本年度<目標:20%> 本年度<目標:250回> 本年度<目標:年間20回>	1回 0% 213回 20回	C C B A	た。 ・学校行事も中止が多く、育友会会員の参加は見送った。 ・ブログの更新回数は、学校行事の中止もあり、話題に苦勞した。	・新しい学校の様子、特に日々の生徒の実習の様子等をブログで発信できるよう努める。	高校としての魅力を築いてもらいたい。 ・学校の魅力をさらに発信してもらいたい。
-----------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	-------------------------	------------------	--------------------------------------------------------------------	------------------------------------------	--------------------------------------------

各分掌等の評価総括

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	4-② ○学校関係者への情報発信の充実に努め、積極的な意見聴取を行うことにより、学校・家庭・地域の連携をより強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・同窓会等との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 ・育友会の学校行事への参加意識を高める。 	0%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、総会は書面審議により実施した。 ・創立70周年記念事業にあたり、同窓会・育友会の協力も得て、無事式典を終えた。 ・全国募集により、育友会役員の出選が難しく、育友会の在り方に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会の活動については、今後も遠方の保護者が増加する中で、役員選出や活動を見直す。 	
	4-②③ ○中学生やその保護者を対象に賀名生分校の魅力を情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・賀名生分校紹介のパンフレット等を作成する。 ・学校説明会（中学校・保護者等）を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賀名生分校独自のパンフレットの内容を改訂し、県内全中学校に配布する。 ・学校説明会を開催し、機会あるごとに個別相談等も実施し、賀名生分校の特色を理解してもらう。 	3回	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学校見学にも随時対応し、賀名生分校の特色並びに西吉野農業高校の情報を広めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校の特色や魅力の情報発信に努める。 	
	4-③ ○中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の高校見学を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月第3土曜、11月第3土曜に開催する。 	131名	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2回実施した高校見学会に、中学生53名、引率78名を含めて131名の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の進路決定時期に合わせて、説明会を実施する。 	
	4-① ○地元幼稚園との交流。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ招待したり、定期的に訪問し、交流の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい健康祭や、食育活動・農業実習等、機会に応じて交流を図る。 	1回	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ふれあい健康祭をはじめ、今年度の地域との交流は中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい健康祭や幼稚園との交流を新しい学校でも引き続き実施できるよう、準備する。 	
	4-④ ○学校ホームページやブログを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子をリアルタイムで伝え、情報をタイムリーに発信する。内容の充実を図り、アクセス数を増やす。 	月9,000件	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの発信内容に加え、自宅学習期間中の連絡手段としても活用できた。学校行事が制限され発信回数も減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ発信者を数名に増やし、様々な視点で発信できる体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で生徒のため様々な取組を行っていることがよくわかった。
教務部	1-(2)-① ○座学と実習の時間割配置の工夫。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業科の総合実習等、校外で取り組む授業や非常勤講師の授業を中心に時間割を作成する。 ・座学に影響が出ないよう、実習を休日に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座学と実習の時間割配置の工夫により、生徒が主体的に学べる態勢づくりに努め、出席率の向上をめざす。 	96%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・座学と実習の時間割配置については達成できた。出席率は96%であった。地元農家での現場実習も徐々に成果が現れてきた。学校生活に関するアンケートの結果、落ち着いて授業に取り組んでいるという回答は46%だが、昨年度を若干上回っている。この状況をさらに改善ことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、生徒が主体的に取り組める指導法や教材の工夫、協働体制の確立を図る。 ・学校生活に関するアンケート・保護者アンケートを詳しく分析し、目標を鮮明にすることで学習習慣の向上につなげていく。 	
	2-(2)-② 4-① ○地域との連携による社会性の醸成などに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい健康祭」や地域の福祉施設訪問等を実施し、地域の様々な世代との交流を通じて、挨拶等の礼儀や他者に対する思いやりを身に付けられるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と触れ合う学校行事等を通じて、挨拶等の礼儀を育成する。日々の学校生活においても、礼儀を守り、思いやりのある行動がとれているかを観察し、指導に当たる。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校外の学習のほとんどが実施できなかった。ただし、地域関係者の尽力で地元農家での実習は、昨年と同程度は実施でき、社会性の醸成ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、地域での実習・就業やボランティア等の体験活動を学校生活における目標と捉えて取り組み、達成感を持つことができるよう指導を継続する中で社会性を身に付けさせる。 	
生徒指導部	3-(2)-③ ○規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立。	<ul style="list-style-type: none"> ・服装・礼儀・挨拶など日常生活に関わる基本的なルールを守る姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内やバス停の巡視を行い、生活態度やマナーについての指導を行う。 ・寮の生活指導員との報告会を行い、生徒理解に活かす。 	毎日 年間	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期の初めには昇降口で担副での指導を行ったが、大きな改善を要する生徒はいなかった。また、学期を通じて、挨拶の指導を行ったが、相手の目を見ず、声の小さい生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的な自信のなさが挨拶に限らず相手への意思表示を消極的なものにしてしまうと考えられるので、挨拶の指導だけにとどまらず、成功体験に目を向け、より積極的に振る舞えるような指導を展開する。 	

		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動やボランティア活動を活性化し、リーダーを育成することで全生徒の規範意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会による美化活動、募金活動、ボランティア活動を積極的に行う。 本年度<目標：年間10回> 	3回 年間5回	B	<ul style="list-style-type: none"> バスを待つ様子は落ち着いていたが、大音量でのイヤホン使用やスマートフォンにばかり目をやる様子が見受けられた。 急な体調不良で診察が必要な場合等に関する意思疎通が不十分な時があった。 生徒会活動は活性化しており、活動において自主的な姿勢が多く見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育に注力し、周囲の状況に目を向け、迷惑をかける行動を心がけさせる。 コロナウイルス等への対応等、専門知識が必要な情報は、養護教諭を中心に寮との連携を図る。 美化活動やボランティア活動等活動の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動に積極的に参加して、生徒の自己有用感を育ててもらいたい。
	3-(2)-① ○多様な生徒と問題行動に対する指導の確立。	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の報告・連絡・相談を重視し、諸課題について教員間の共通理解を図る。 いじめの防止等のための基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見につとめ、個人別生活カードを効果的に活用して組織的な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員朝礼や職員会議等において、問題の内容や経過についての報告を行い、組織的な対応を図る。 いじめのない学校づくりに努める。 本年度<目標：いじめアンケート0件> 	5件	B	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動に対する報告・連絡・相談は適切に行われていた。 重大事象はなかったが、からかいや人間関係についての悩みは見受けられ、継続観察中の案件もある。事象についての記録はできていたが個人別生活カードの活用は不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も一層、緊密な連携を図る。 巡視も含め、生徒の状況観察を徹底する。個人別生活カードの活用については、利用の啓発につとめる。 	
	3-(1) 4-① ○保護者や各関係機関との連携。	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒の指導では、保護者の理解・協力を得ながら、各関係機関との連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用する。 本年度<目標：年間10回> 	7回	B	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回、五條市子どもサポートセンターのカウンセラーにより、カウンセリングを実施した。利用生徒は少ないものの時間をかけて対応いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリング希望者の増加によってはカウンセラー来校の時間や日数を伸ばす必要がある。 	
	3-(2)-① ○安全教育の推進。	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関と連携し、危機管理や安全についての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 警察、消防署、医療機関などと連携を図り、薬物乱用、災害への対応、防犯対策等について講演会を開催する。 本年度<目標：年間2回> 	2回	A	<ul style="list-style-type: none"> 警察に依頼して薬物乱用防止に関する講演会を実施した。また、避難訓練も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> AEDの使用法や不審者への対応等、他のテーマにも取り組む。 	
進路指導部	1-(3) ○計画的・系統的・組織的に進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に沿って、HRで進路指導を実施するためのワークシートを準備する。 面接カードを作成し、生徒の振り返りに活用する。 進路ファイルを作成し、生徒の振り返りに活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の進路目標を設定し、HRにおける系統だった進路指導を実施する。 本年度<目標：ワークシート作成5回> 	5回	A	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを意識したワークシートを作成できた。進路ファイルに残すことにより、生徒が振り返りに活用できた。 面接カードを使い、生徒が面接練習で意欲的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がどの学年でどのような力をつけてほしいかを明確に、進路HRを計画改善していく。 進路ファイルにワークシートを4年間残していくことで、進路実現につなげる。 	
	1-(3) ○多様な生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って生活させる。	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けたHR活動や個別相談の体制を整える。 就労体験等の事前指導・振り返りを充実させて、よりその効果を高める。 支援が必要な生徒を安定した雇用(福祉就労A)に結びつける手立てを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワークや関係機関と連携し、生徒の進路実現につなげる。 ホームルームを利用し生徒の基礎学力を育成する。 農業実習やインターンシップ等を振り返る機会をつくり、進路実現のための目標を持たせる。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ハローワークや関係機関と連携し、生徒本人の希望する進路実現のサポートができた。 業者の適正検査は生徒も興味を持ち、担任の進路面談に活かされた。 コロナウイルスの影響でLHRの回数も減り、十分な基礎学力を育成することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組で良かった内容を継続し、見直しを持った進路指導を意識する。 インターンシップ等進路に関わることは、目標をしっかりと持ち、今後の自己実現につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも生徒一人一人に対応したきめ細やかな進路指導を望む。
	1-(3) 3-(2)-⑤ ○望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。そして、早期離職を未然に防ぎ、就職先への定着を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の定期的な状況調査を実施すると共に就職先の訪問により可能な限り現状を把握し、記録を残す。 インターンシップの受け入れ先を新規に開拓し、様々な生徒のニーズに対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧担任への協力を求め、定期的な状況調査の実施と卒業生就職先と連絡をとり、可能な限り現状を把握する。 インターンシップの受け入れ先を新規に開拓し、生徒のニーズに対応したインターンシップ受け入れ先を見つける。 本年度<目標：受け入れ先新規3件> 	3件	A	<ul style="list-style-type: none"> 早期離職は2名。(R1、3月卒) インターンシップ参加者は3名。生徒の希望する受け入れ先を見つけることができた。コロナウイルスの影響でインターンシップの機会が作れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 1～3年は農家実習においてインターンシップを行えているが、農業以外を希望するインターンシップが行えていない。 	
人権教育部	1-(2)-② 3-(2)-② ○職員の人権意識の資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修として、HR指導案の検討等を行う。 教職員向け研修会に積極的に参加する。 人権HRの他、学校行事等により、生きる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 県主催の研修会や高人教、県外教の研修会等の案内、参加を呼びかける。 本年度<目標：各自年間1回以上> 	0回	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大に伴う研修会の日程変更などもあり、研修会への参加を呼びかけができなかった。 職員研修として、LHR指導案の検討ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の連絡を回覧という形で周知していきたい。 LHRの1週間前までに指導案を担任に提示し、内容について検討する。 	
	3-(2)-② ○生徒の人権意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 人権全校学習会で人権をテーマとした行事を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身近な話題をテーマとした人権に関する映画会を実施する。 本年度<目標：年間1回> 	0回	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う行事の変更により映画会を実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習会を全校ではなく、各学年ごとに行うなど実施のあり方を検討する。 	
	3-(2)-① ○特別支援教育の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする生徒の把握を職員間での情報共有を図る。 家庭や中学校との連携を深め、支 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議時に支援を必要とする生徒に関する情報の共有を図る。 		B	<ul style="list-style-type: none"> 入学前や年度当初に保護者や中学校から相談を受ける形で、支援が必要な生徒の把握を図 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒への対応について、生徒指導部、養護教諭との連携が不可欠と痛感 	

		援を必要とする生徒の把握に努める。				たが、より多面的に把握するために、養護教諭との連携が必要だと思われる。	した。来年度の校務分掌には養護教諭も人権教育部に入っていることを検討する。	
保健 体育部	2-(2)-② ○心身を鍛え、体力の向上を図る。	・興味・関心を引くよう行事内容を検討して、積極的な参加を促す。	・体育行事への参加率を高める。 本年度<目標：95%以上>	99%	A	・今年度は、縮小などを余儀なくされたが、全体的に積極的に参加してくれた。今後は、個々の参加意識や行事内容の充実に目を向け、計画していく。	・生徒会を中心に、生徒が主体的に計画に携わり、内容を精査していく。個人の参加意識に関しては、授業時から意識の向上をめざし指導する。	
	2-(2)-① ○食育指導を通じて、健康意識を高めるとともに生活習慣の改善を図る。	・昼食時等を活用して指導を行う。	・アンケートを実施して、欠食率を把握する。 本年度<目標：10%未満>	アンケート未実施	C	・給食指導は行えているが、給食を希望していない生徒への指導は行き届いてない。また、朝食に関しては、欠食している声を耳にするので、より一層の食育指導が必要である。アンケートも実施できなかったため、今後実施し、調査していきたい。	・給食を希望していない生徒に関して、担任や副担任で見回りを行うなどの実態調査、指導や、寮などでも食育指導を強化してもらい、改善に向けての取組が必要である。また、授業などでも食事について積極的に取り扱い、生徒に関心を持たせる取組が必要である。	・安心・安全な学校であるとともに生徒の健康面に留意して、しっかりと指導を望む。
第1学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・高校生としての自覚と基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、挨拶、言葉遣い等の人として必要な素養を身に付けさせる。 ・登下校時の挨拶はもちろんのこと、授業での挨拶や学校生活における言葉遣い等を正しく身に付けられるよう、できるまで繰り返し指導する。	・家庭訪問や寮長（舎監）との面談を実施し、家庭や寮との連携を図り、欠席・遅刻の減少に努める。 本年度<目標：出席率95%以上>	99%	A	・遅刻、欠席、早退ともに少なく、日々の体調管理にも各自努められている。体調管理や自己管理ができていない生徒が決まってきているので、引き続き徹底して指導することが必要である。 ・挨拶や言葉遣いに関しては、入学当初は甘さがあったものの、繰り返し指導を行い、正しい態度を身に付けてきている。	・生活指導や食育指導などを徹底し、各自の自己管理能力や意識の向上に繋がるようにするため、寮の生活指導員との連携や協力体制を、より強固なものにしていく必要がある。 ・学校外での活動を活発に、積極的にを行い、外部の方々と関わる機会を増やすことで、正しい素養を身に付ける必要性を高めたい。	
	1-(1) 1-(2)-② 1-(3) ○基礎学力を身に付けさせる。	・日々の授業の大切さを理解させ、学習に取り組む姿勢の向上に努める。	・検査点がすべてではないこと、日々の授業の様子や提出物等も成績として評価されることを理解させ、日々の授業を大切に、各科目の欠課時数を減らすとともに、ノート、プリント等の課題に積極的に取り組ませる。		B	・ほとんどの生徒ができていますが、限られたごく一部の生徒がなかなか改善できずにいる。その様子を周りの生徒が不快に感じている場面もあり、全体のモチベーションに影響することもあった。	・日々の授業態度や提出物の提出の有無などに細かく注意を払い、できるまで徹底して取り組ませる指導を継続していく。また、期限を細かく設けることで、期限を守る習慣を身に付けさせる。	
第2学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を身につけさせる。また授業に集中して取り組む姿勢を養う。	・社会人として必要な挨拶、返事、言葉遣い等を意識させ、繰り返し指導を行う。 ・時間のけじめを付けさせる。 本年度<目標：遅刻50件未満、途中入室25件未満>	遅刻 37件 途中 入室 61件	C	・農家実習に対する意識も少しずつ変わってきたが、社会人となるために必要な挨拶、返事、言葉遣いはまだまだ不十分である。遅刻、保健室利用は昨年度より減ったが、まだまだ多い。 ・人間関係も2年目となると相互理解もできるようになってきたが、支援が必要な生徒や特性を持つ生徒が多いため、なれ合いの中でのトラブルも続いている。	・昨年度よりも個別面談の機会を多く持ち、一人ひとりに声をかける時間をできるだけ作っているが、もっと声をかける必要性を感じている。保護者や養護教諭、スクールカウンセラーと連携して、支援の必要な生徒や特性のある生徒と関わっているが、多様な生徒に対応する体制が必要である。 ・進路実現に向けて目標設定をしっかりと持たせ、努力する姿勢の必要性を伝えていきたい。	
	2-(2)-③ 3-(2)-③ ○他人を思いやる心を持たせる。	・各自が2年生の一員であることを自覚し、集団の中での円滑な人間関係を育成させる。	・日常的に生徒の観察を行い、声をかける機会を多く持つ。また、状況に応じて適切に関わり、人間関係形成力を身に付けさせる。		B			
	1-(3) ○卒業後の進路を意識させる。	・農家実習やインターンシップを通して、主体的に自己の進路について考えさせ、具体的な進路目標を設定させる。	・農業実習やインターンシップを振り返る機会を作り、自分に必要な力を考えさせる。また、HR等を利用し、将来の進路実現に向けての目標を持たせる。		B			
第3学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせる。 ・場をわかまえ、他者を思いやる言動ができるようになる。	・問題行動の件数を減少させる。 本年度<目標：10件未満>	3件	A	・社会人として必要な礼儀等身に付けてきたが、生徒指導1件、インターンシップで無断欠席1件、いじめ認知が1件あった。 ・各グループでそれぞれの課題に取り組み発表や実習ができた。	・全体に社会人としての礼儀、マナーの大切さを指導するとともに、該当生徒へ注意する。 ・今回の発表をもとに、次の発表では内容や準備物などから生徒たちで話し合い考えさせる。 ・LHRを活用し、生徒自身の適性を理解させる。また、特に農業関係以外を就職希望している生徒にインターンシップへの積極的な参加を促す。	
	1-(2)-① 2-(2)-③ ○学習方法と表現力の向上を図る。	・学ぶ方法や学んだことの表現方法を身に付けさせる。	・座学、実習を関連させて学んでいるか、学んだ事柄を自分の言葉で伝えられるかの確認に努める。		B	・全員有償インターンシップに参加した。進学の生徒はオープンスクールに参加したり、電話で問い合わせたりと積極的に取り組んだ。一方、就職希望の生徒はしたいことが定まっていな生徒もいる。		
	1-(3) 3-(2)-⑤ ○進路目標を具体的にさせ、その実現に向けて取り組ませる。	・進路目標を主体的に模索し、その実現に向けて取り組ませる。	・就労活動を通して進路に関する希望や意志を随時確認する。 ・インターンシップやオープンスクールに参加させる。 本年度<目標：各自1回以上>	各自 1回 以上	B			
	3-(2)-①③ ○最高学年としての自覚と責	・下級生の模範となるような生活習慣や生活態度について考えさせる	・欠席日数を抑える。 本年度<目標：各自5日以内> ・週の初めに、正しい服装の着方を確認する。	1名 5日 以上	B	・1名が進路の迷いにより、2学期当初は欠席がつづいたが、残りの3名は欠席が無かった。	・就職や進学に向けて、LHR教材や指導案を確立させ、遅くとも3年生から計画的に	

第4学年	任をもたせる。	機会を多く設け、自身の生活習慣を振り返らせる。	・週の終わりに、ロッカーや机などの教室環境を確認する。 [本年度<目標：週1回>]	週1回		就職活動に向けてのガイダンスで、進路に対する不安の対処への仕方などを充実させる必要がある。 ・3名の進路が決定しており、残りの1名もほぼ決定する。ハローワークとも連携することで、一人ひとりに合った進路を選ぶことができた。一方で障害を持っている生徒の進路対策に不安が残る。 ・面接での質問項目の回答の基本がわからず、練習が嫌になる生徒もいた。	実施する。本学の生徒には、課題を抱えた者も多いので、自己理解や自己受容について特に意識しておく必要がある。 ・ハローワークと連携し、生徒の情報の共有を行って、円滑な就職支援につなげる。来年度以降の応募前見学の実施方法を検討する。 ・基本的な面接質問の答え方などを早めに教え、各生徒が早めに材料を集められるように呼びかける。	
	1-(3) ○生徒の希望や適性に合った進路の実現。	・進路指導用シートを利用しながら、正しい勤労観・職業観を養う。 ・保護者の意見や、生徒の適性や可能性を活かした進路指導を行う。	・進路指導について、生徒、保護者との面談を複数回行い、指導用資料を整える。 ・進路先とのミスマッチがないように、会社見学を行ってから試験に臨ませる。 [本年度<目標：応募前見学必ず>]	達成	A			
	1-(3) 2-(2)-③ ○社会人になるにあたって、心構えやマナー、ソーシャルスキルを身に付ける。	・他者を気遣う言葉遣いやコミュニケーションの取り方を学ぶ。 ・社会において、一般的なマナーについて知識を身に付ける。	・敬語やマナー、コミュニケーションに関するワークシートを完成させる。 ・就職面接、またその練習を通じて、実践的にソーシャルスキルを身に付ける。 [本年度<目標：練習各自5回以上>]	1名5回以下	B			
農業科	1-(1) 1-(2)-② ○基本的な農業技術の定着を図る。	・実験実習を重視し、実践的な授業を展開する。 ・生徒が積極的に学ぶことができる、安心・安全な農場づくりに取り組む。	・実験実習実施割合を重視。 [本年度<目標：50%以上>] ・農場の整備不足による、実習中のケガ人をなくす。 [本年度<目標：0件>]	50% 0件	A	・分野に分かれて充実した実習を行うことができた。 ・農場整備は十分行き届き、大きなケガや事故はなかった。 ・実習記録簿は全員提出しているが、記述内容には大きく差がある。 ・1年生では農家での実習を実施するまでの事前指導に時間をかけた。生徒の取組状況から事前指導の重要性を認識できた。 ・コロナ禍によって県連盟大会やその他の発表会、および地域のイベントが中止となったため参加できなかった。	・校舎移転に伴う、農場整備を安全かつ迅速に行い、新年度の実習を充実させる。 ・記録簿のみならず、メモの取り方等についても指導する機会を設ける。 ・農家実習で必要とされる、最低限度の知識や礼儀について、受入農家の意見を反映し、事前指導をさらに充実させる。 ・コロナ禍であっても社会性を育む取組を企画する。	・農家実習を実施する前に学校でも基本的な知識や技術を指導し、挨拶等マナーも身に付けておいてほしい。地元農家として支援は惜しまない。
	1-(2)-② 3-(2)-⑤ ○地域農業の状況や課題に関する学習内容の充実を図る。 ○地域農家での実習を充実させる。	・農家での実習により、技術だけではなく、勤労観や経営観を育成する。 ・実習を実施するまでの事前指導を充実させる。	・実習記録を毎回記入させ、年間を通じた振り返りの機会を設ける。 [本年度<目標：毎回>] ・農業用具の安全かつ効率的な使用法やマナーについての事前指導を行う。 [本年度<目標：40時間>]	毎回 30時間	B			
	3-(2)-④ 4-① ○農業クラブ活動の充実を図る。	・各競技会にむけた取り組みを強化し、地域行事などに積極的に参加する。	・県連盟競技会、発表会に3部門以上参加し、近畿大会・全国大会に出場する。 ・地域のイベントに参加する。 [本年度<目標：5回>]	1回	C			